

令和6年度第2回相楽東部広域連合総合教育会議 会議録

1 日 時 令和7年3月14日（金）午後1時30分～午後2時50分

2 場 所 和東町体験交流センター 会議室

3 出席者 広域連合長 平沼 和彦
副広域連合長 山本 篤志
副広域連合長 馬場 正実
教育長 岡田 善行
教育委員（教育長職務代理者） 石橋 常男
教育委員 村田 年宏
教育委員 谷本 一榮
教育委員 鈴木 慶一

4 傍聴人 なし

5 議 事

（1）開会

司 会 松浦事務局長

（2）広域連合長あいさつ

平沼 広域連合長

相楽東部広域連合総合教育会議設置要綱第4条に基づき、広域連合長が会議の議長として以下の議事について進行を行った。

（3）議 題

① 教育に関する「大綱」について

事務局や教育長から、資料に基づき、教育に関する「大綱」の改定趣旨、内容等について説明を行った。
質疑等の結果、教育に関する大綱（案）について、異議なく承認された。

<主な質疑・意見交換>

○教育長

2025年問題は大きな問題であり、この問題に向き合わねばならない中で、地方創生に果たす教育の役割は決して小さくないこと、学校は、「子どもの学びの場」のみならず、「地域コミュニティの核となる場」であること、また、地方創生とSDGsを基本理念に追加した。

○副連合長

部活動の地域移行は、令和7年度までにすべて終えるという話だったと思うが。

○教育長

目標であり、そういう方向で進めていくが、令和7年度に全部やるということにはならない。

相楽東部では、できるだけ平日の部活動は学校でやっていき、土日については地域の方に見ていただく方向で、どちらか1日は休むことになっている。

可能であれば学校の中に外部指導者に入ってもらい、やりたい、教えたいという人たちを基にしながら少しずつ移行していこうというところで、そんなに急には進んでいない。

地域の方の協力がないと進まないため、地域で関わっている人たちの意見を聞きながら、できるところからやっていくというのが現在の状況である。

○教育委員

中学校のクラブというのは、将来を決めるものでもないかなと思う。子どもをアスリートにすることを目指す親は、外部に連れて行くのではないかな。中学校の部活動は、スポーツを感じられるようにするための入り口で良いのではないかなと思う。

○教育委員

少人数教育についてはメリット、デメリットがある。

人との関わり合いでは、幼稚園と高齢者との交流をしたり、茶源郷まつりで中学生が店の手伝いをしたりするなど、いろいろ活躍の場を広げてくれているのではないかな。

これからコミュニケーション能力をどう高めていくかが大事である。

相楽東部では、保育所、小学校、中学校と、そのままの顔ぶれであり、節目や刺激がなく、本来の仲間づくりはできないのではないかな。切磋琢磨することで成長していくのではないかな。

○連合長

以前は、各地区に小学校があったときにはコミュニティがそこで核になっていたが、今はそれが薄らいでいるのではないかなと思う。

○教育委員

子どもたちを見守ってあげるのが周りの地域住民であり、教育委員会全員であつたり、学校の先生であつたりするので、このままでも子どもたちは育っていくのではないかな。

○連合長

大綱や重点の理念や基本方針は、各学校同じように展開していつているのか。

○教育長

大綱を細分化した連合の重点は、学校に配布されており、この中味を各学校がしっかり解っていただかないと絵に描いた餅になってしまう。

以前から、教育長が考えていることを文書化するという作り方をしていたが、今回は少しやり方を変え、私の作った連合の重点を、課内で点検をしてもらい、意見を取り入れて作った。

これまでは総括が弱かったため、次年度は、これに基づいてどうだったのかの意見をアンケートなどで吸い上げ、それを基に次のものを作っていくというようにすればとイメージしている。

② 令和7年度「連合の教育」の重点について

教育長から、令和7年度「連合の教育」の重点について説明を行った。

<主な質疑・意見交換>

○教育長

課内での意見を踏まえて、基本理念、基本方針、はぐくみたい力、年度別目標、施策推進の視点、取り組むべき項目に、順番を入れ替えた。

○広域連合長

生成AIの文法が本当に正しいのかなどについて、検証されたことはあるのか。

自分は使っているが、生成AIを使うと、言い回しがすっきりする。

中学生が使い出し、大学では生成AIで論文を作るという時代だが、教授などはそれを見ると、大体解ると言っている。それに頼ってしまうと、本当の想像力というのが育たない。

○教育長

自分では使っていない。

中学校では、まだ使ってはだめだということになっていると思うが、もう使い方を教えないといけない。何か情報を入れないと答が出ないので、そこに情報を入れる力がある。

○教育委員

中学校3年までに基本を作っておかないと、自分の力では何もできないということになる。

手法についてのプロセスがないので、先生はすぐに生成AIを使ってしまう。なぜそういうやり方をするのかについては考えられない。

○教育委員

一斉授業が基本であり、子どもたちに一斉授業をするだけの教師の力量がないとだめである。

今求めているのはアクティブラーニングで、自分で解決をするということを飛び越えてしまうといけない。自分でまず考え、それから疑問がわき、その疑問を解いて45分間が終わる、その道がついたのを次の授業に積み重ねていく。一つずつ積み重ねていくことが大切である。

○教育長

今デジタルというのはなぜかということが解らなかったとしても、それが使いこなせることが大事である。

これをやったからすぐに結果が出ないのが教育だが、長い目で見てやってほしい。

教科書自体は紙の方が良いと思うが、デジタルを使わないことにはならないと思う。
絶対的に価値があるものは戻らないし、デジタルは絶対的価値があるものなので、戻らないと思う。

○教育委員

デジタル教科書を利用しているが、紙とデジタルを50%ずつくらい使っている。
デジタル教科書は、すぐにページが戻れないのが欠点である。

○広域連合長

道徳の教育になるかと思うが、礼儀もそうだが、もっとしっかり教育はできないのかなと思う。

○教育長

道徳という教科自体は日本にしかない。

○副広域連合長

家庭でのしつけが大事である。

③ その他

○学校教育課

インターネット機器の回線工事が終わり、各校に1ギガのブレイクアウトができる状態に入っていけることに對し、この場をお借りしてお礼申し上げる。